

諏訪盆地西部における御岳第一テフラの高度分布

井口豊(生物科学研究所)

日本地理学会発表要旨集 96: 124 (2019 年度日本地理学会秋季学術大会)

Altitudinal distribution of Ontake Pm-1 tephra in the western part of the Suwa basin

Yutaka Iguchi (Laboratory of Biology)

Proceedings of the General Meeting of the Association of Japanese Geographers 96: 124

要旨集は、[日本地理学会発表要旨集\(2019 年度日本地理学会秋季学術大会\)](#)から入手できる。

連絡先:

井口 豊

〒394-0005 長野県岡谷市山下町 1-10-6 生物科学研究所

iguchi.y@lab.ivory.ne.jp

諏訪盆地西部における御岳第一テフラの高度分布
 Altitudinal distribution of Ontake Pm-1 tephra
 in the western part of the Suwa basin

井口豊(生物科学研究所)*
 Yutaka IGUCHI (Laboratory of Biology)

キーワード: 御岳第一テフラ, 諏訪盆地, 糸魚川-静岡構造線, 活断層
 Keywords: On-Pm1 tephra, Suwa basin, Itoigawa-Shizuoka tectonic line, active fault

1. はじめに

東日本における重要な火山灰鍵層の一つに、御岳第一テフラ (On-Pm1) がある。本研究では、諏訪盆地西部 (岡谷市西部) において、その高度分布を調べた結果を発表する。

2. 高度分布状況

図1に、On-Pm1 の露頭を確認した地点を示し、その次の表1に、それぞれの標高を示す。

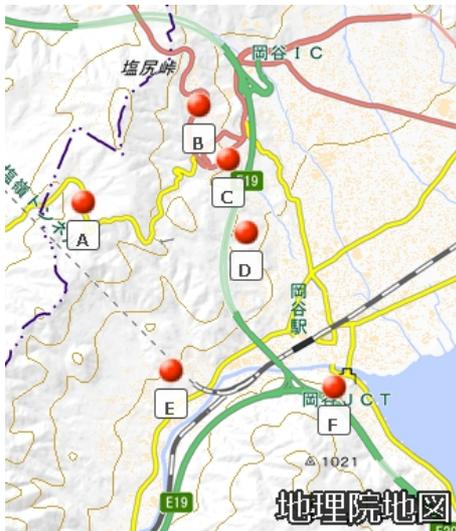


図1. 御岳第一テフラ (On-Pm1) 露頭の位置。(背景地図は、国土地理院の電子国土 Web システム提供。

表1. 御岳第一テフラ (On-Pm1) の高度分布

地図記号	On-Pm1 の露頭位置	標高 (m)
A	勝弦峠の北西 380 m	1020
B	塩嶺林間工業団地の東入り口	958
C	岡谷工業高校グラウンド西斜面	894
D	立正閣の裏 140 m	859
E	川岸上2丁目の天狗社	862
F	花岡城址の西 170 m	803

On-Pm1 の分布高度が、盆地北西部へ向かって増していることが分かる。これは、盆地北西部の隆起運動を反映しているものと思われる。ただし、C 地点がある小丘は西方か

らの地すべり地形の可能性があり (井口, 2015), もしそうならば、C 地点の元の分布高度は、さらに高くなる。

On-Pm1 露頭の緯度、経度、標高データを、グラフ作成ソフト gnuplot で 3 次元化したのが、図 2 である。盆地の北西部へ向かって、On-Pm1 の高度が増しているイメージがつかめる。

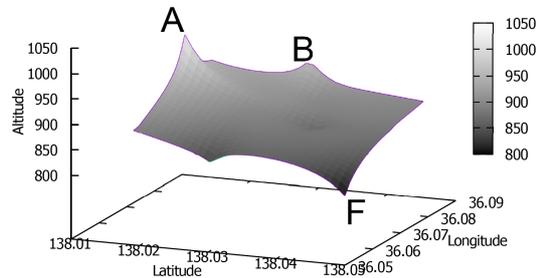


図2. On-Pm1 分布の 3 次元グラフ

B, C 地点の On-Pm1 の高度が、A 地点に比べて相対的に低いのは、B, C 地点付近を通るとされる糸魚川-静岡構造線系の活断層の影響があるかもしれない。事実、B 地点 (図3) では、On-Pm1 を切る多数の正断層 (最大落差 5 m) が認められている (井口, 2013)。



図3. B 地点で見られた On-Pm1 を切る正断層群。

参考文献

井口豊 (2013) 長野県岡谷市の塩嶺西山地域における断層と地すべり地形. 日本活断層学会 2013 年度秋季学術大会講演予稿集: 60-61.

井口豊 (2015) 3 次元画像で得られた長野県岡谷市塩嶺山地における地形地質学的特長. 日本活断層学会 2015 年度秋季学術大会講演予稿集: 56-57.